

03 風水害への備え

① 大雨や台風による被害想定は？

大規模災害は地震だけでなく、大雨や台風によっても発生します。
目黒区内で風水害が発生した場合の被害について、具体的なイメージを持つことが大切です。

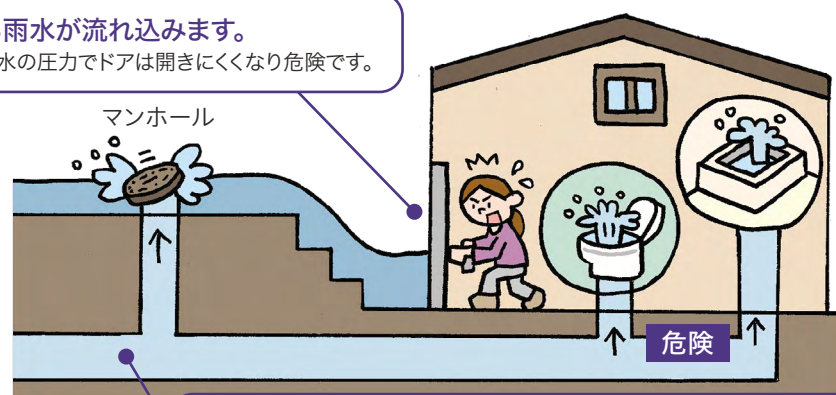
目黒区で起こりうる水害

大雨により川から水があふれ出す**外水氾濫**^{*}は、平成元年8月1日以降起きていません。
しかし、近年の局地的な大雨・線状降水帯などの異常気象は激しさを増しているため、
急激な川の増水により洪水が起こる可能性はゼロではありません。
さらに、短時間に局地的な大雨が降るなどした場合、下水道や排水路の処理が追い付かずに、
地表に水があふれて冠水する**内水氾濫**が発生する可能性もあります。
事前にハザードマップを確認し、水害発生時の避難方法を決めておきましょう。
※大雨により川から水があふれ出す現象（洪水）

水害による被害

家屋被害	- 家屋内への浸水 - 地下室への浸水、閉じ込め - トイレなどからの逆流
ライフライン被害	- 停電 - 断水 - 通信障害 - 地下鉄・地下街への浸水 - アンダーパスの冠水
その他被害	土砂崩れの発生

道路側から雨水が流れ込みます。
※流れ込んだ水の圧力でドアは開きにくくなり危険です。



下水が逆流するおそれがあります。
※トイレや風呂場が、道路面より低い場所にあると下水が逆流する場合があります。
※下水が逆流すると、トイレやお風呂を使用できなくなる場合があります。

② 都市型水害に備える

地震と違い、水害は事前に予測できることが多く、対策しておくことで被害を最小限におさえることができます。

「都市型水害」とは？

東京都内では、市街化の進行による影響で、地下に雨水が浸透しにくくなり、短時間に大量の雨水が川に流れ込む傾向にあります。
また、地球温暖化やヒートアイランド現象などの影響ともいわれる時間雨量50mmを超える豪雨が頻発し、中小河川が氾濫する都市型水害が発生しています。

▶ 川の水があふれる場合

東京都では、河川の改修や、下水道などの整備を推進しており、目黒川は平成元年以降あふれていません。しかし、近年の異常気象による豪雨は、またたく間に目黒川の水位を上昇させるため、注意が必要です。

▶ 下水が逆流してマンホールなどからあふれる場合

アスファルトやコンクリートなどで舗装された地面は、雨水がしみこみにくくなります。そのため、降った雨が下水道や河川に一気に流れ込み、低い場所では排水しきれず、川があふれていなくても水害が発生することがあります。

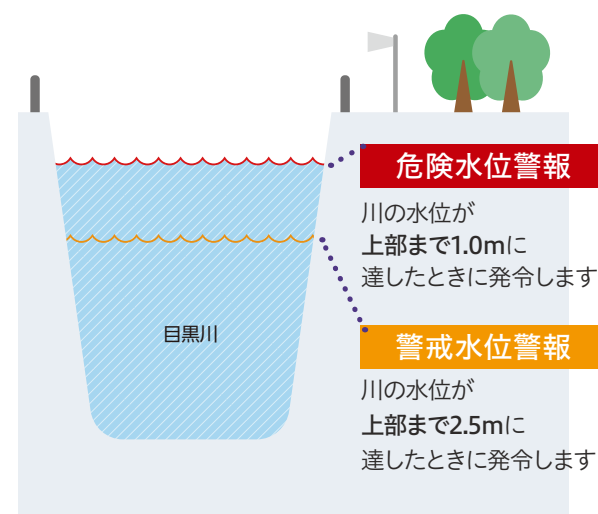
▶ 地下室への浸水

地下にある部屋や駐車場などに雨水が流れ込み、排水しきれなくなる場合や、地下室の排水管から逆流し、浸水する被害が増加しています。

目黒川氾濫に備え、区が行っている対策は？

目黒川の水位は普段低い水位で安定していますが、局地的な大雨や線状降水帯の発生などによって、上流河川や下水道から水が大量に短時間で流れこむことで、急に水位が上昇する特徴があるので、注意が必要です。

◆ 水位警報を鳴らし注意を促します



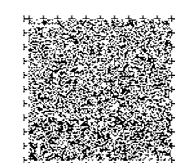
◆ 区内77か所の土のう保管箱に合計10,500袋^{*}の土のうを配備 自由にお持ちいただけます。 ※令和8年7月時点の数値。 最新の数値は右コード



◆ 止水板設置工事の助成 浸水被害を軽減するため、止水板を設置する工事を行う方に対し、工事費の一部を助成します。



◆ 台風前の雨水ますなどの点検、清掃



3 自宅でできる風水害対策

自宅でできる風水害対策は？

台風や豪雨による風水害は区民生活に大きな被害を与えます。
また、川の近くに住んでいなくても、低い土地や建物特性により浸水リスクがあります。
気象情報に注意して油断することなく、事前の対策をたてておきましょう。

屋内での対策 気象情報に注意し、むやみに家から出ないようにしましょう。

- ▶ **スマートフォンやモバイルバッテリーを充電する**
停電に備えてフル充電にしておきましょう。
- ▶ **浴槽に水をためる**
排水管の逆流による浸水防止や、断水時の生活用水としても役立ちます。
- ▶ **水が流れていく場所は逆流する可能性があります**
洗濯機や浴室の排水口、トイレの便器内などには水のうなどを設置しましょう。
- ▶ **懐中電灯や携帯ラジオを準備する**
スマートフォンは連絡手段としてだけでなく懐中電灯の代わりとしても使用できます。
情報収集にはテレビやラジオを活用しましょう。
- ▶ **大事なものは高いところへ**
浸水のおそれがある場所では濡れると困るものは高いところに移動させましょう。
- ▶ **窓ガラスに飛散防止対策を**
飛散防止フィルムを貼り、カーテンやブラインドは閉じたままにしましょう。

屋外での対策 強風に注意！固定できるものは全て固定しておきましょう。

- ▶ **雨戸や網戸を固定する**
養生テープやガムテープで固定し、風で飛ばされるのを防ぎましょう。
- ▶ **雨どい・側溝・雨水ます・排水溝の掃除**
ゴミや土砂を取り除き、水はけを良くしましょう。マンション高層階であっても、排水が滞るとベランダから浸水する場合もあるため、注意しましょう。
- ▶ **飛ばされやすいものは固定する**
プランターや物干し竿、インテリアなどが飛ばされると、窓ガラスが割れたり人にぶつかりケガをさせたりすることもある。できる範囲で固定しておきましょう。

地下での対策 豪雨時は地下室には近寄らないようにしましょう。

- ▶ **ガレージや半地下玄関からの浸水に注意**
土のうや止水板で物理的に水の浸入を防止しましょう。
- ▶ **浸水すると地下室の扉は開かなくなります**
短時間で浸水しやすく、外の様子も見えないため逃げ遅れる危険性があります。
地下にいたときに大雨が降ってきたことに気づいた場合は、速やかに避難しましょう。

「土のう」や「水のう」による浸水防止方法

いざというときに備えて自分でできる浸水対策を覚えておきましょう。

「土のう」の使い方

▶ 事前の準備が重要

大雨が降ってきてから土のうを取りに行くのでは、間に合わない場合があります。
浸水を防ぐため、雨が降ることがわかった時点で必要数を確保しておきましょう。

- 浸水を防いだり、排水路を作ります。
- 締め口を建物側の一方に向けて並べて、土のうの上からしっかりと押さえましょう。

地下駐車場や自宅出入口に設置しましょう



- 持ち出した土のうは次の雨に備えて保管をお願いします。

緊急用土のう 保管箱

保管箱内には、土のう約100袋が収納されています。
浸水被害状況を踏まえ、必要箇所に整備しています。

※最新の設置場所 ➡ 32ページ

家庭で簡単にできる浸水防止方法

▶ 簡易水のう

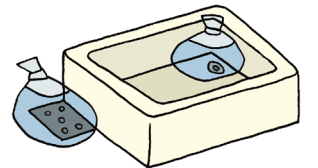
ごみ袋に水を入れ、土のうの代わりに使用します。2~3重にしたなるべく大きいごみ袋（45リットル用）の中に、半分程度の水を入れ、口をしっかりと縛ります。たくさん作って、出入口に隙間ができないように並べたり、排水口の逆流防止として使用します。

▶ 簡易水のうと段ボール箱の併用

簡易水のうを段ボール箱に入れ、連結して使用することで止水板の代わりになります。
水のうだけの場合に比べて強度が増し、また、段ボール箱に入れることによって水のうを積み重ねて使用することができます。

▶ プランターとビニールシートによる方法

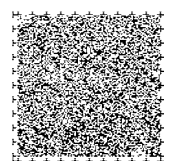
花などを植える土の入ったプランターをビニールシートで巻き込み、連結して出入り口などに並べて使用します。



建物特性による浸水防止方法

▶ 地下室・半地下部分が自宅にある場合

1階以上に比べ、高低差による逆流や浸水リスクが高くなります。
雨水や汚水の逆流を防ぐため、ポンプなどによる排水設備がない場合は必ず排水口に水のうを設置しましょう。また、外からの浸水を防ぐためには、土のうまたは止水板の設置も必須です。



4 水害に関する情報発信

避難情報の発令について



避難情報と取るべき行動

避難情報と取るべき行動を5段階に整理しました。避難情報に応じて、適切な行動をとりましょう。
避難とは、危険を避け、安全を確保することです。
安全な場所にいる方は、必ずしも避難する必要はありません。

警戒レベル ※気象庁が発表	避難情報		住民等がとるべき行動
	種類	発令元	
レベル5 特別警報	緊急安全確保	目黒区	既に災害が発生または切迫している状況です。命を守るための最善の行動をしてください。
警戒レベル4までに必ず避難！			
レベル4 危険警報	避難指示	目黒区	危険な場所にいる場合は速やかに避難しましょう。
レベル3 警報	高齢者等避難		避難に時間を要する人※とその支援者は避難をしましょう。 それ以外の方も、必要に応じて危険を感じたら自主的に避難しましょう。 ※高齢の方、障害のある方、乳幼児等
レベル2 注意報	なし		避難に備え、ハザードマップ等で、避難行動を確認しましょう。
レベル1 早期注意情報			災害への心構えを高めましょう。

避難情報のお知らせ方法

避難情報は、防災行政無線・防災気象情報メール・テレビ・ウェブサイトなどでお知らせします。
※情報発信 36ページ



(例)「こちらは、目黒区災害対策本部です。ただいま、〇時〇分、〇〇町〇丁目に対し、警戒レベル4、避難指示を発令しました。避難所は、〇〇〇〇です。」

目黒区からの情報発信

台風による暴風や大雨、夏に多発する集中豪雨、時期を問わず発生する線状降水帯など、大気の状態が不安定な場合は、天気の急変や短時間に局地的に滝のような雨が降ることがあります。急な天候悪化時にも情報を受け取れるようにしておきましょう。

目黒区防災気象情報

区の雨量情報・水位情報・河川ライブカメラの映像や雨雲の様子、防災情報などをご覧ください。



防災気象情報メール

パソコンやスマートフォンなどのメールで大雨、洪水などの注意報・警報のほか、目黒川の洪水予報など、以下の表の情報を受信できます。
事前にEメールアドレスの登録が必要です。

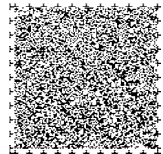


配信される情報	内容
気象警報 注意報	特別警報、警報及び注意報が1つ以上発表された場合 レベル5特別警報：大雨・土砂災害・氾濫・高潮・暴風・大雪・暴風雪 レベル4危険警報：大雨・土砂災害・氾濫・高潮 レベル3警報：大雨・土砂災害・氾濫・高潮・暴風・大雪・暴風雪 レベル2注意報：大雨・土砂災害・氾濫・高潮・強風・大雪・風雪・雷
河川水位情報	基準値に達した場合及び基準値に達したのちに基準値を下回った場合
竜巻注意情報	東京都に竜巻注意情報の発表があった場合
目黒川洪水予報	目黒川に氾濫危険情報などの発表があった場合
週間予報	毎週金曜日16時前後に週間天気予報を配信 ※全ての登録者に配信されます。
区からの お知らせ	目黒区からのメールサービスやシステムなどに関するお知らせ ※全ての登録者に配信されます。 ※週間予報、区からのお知らせは、受信停止することはできません。

問い合わせ 道路公園課補修調整係 | TEL：03-5722-9775 FAX：03-3712-5129

その他

目黒区公式ウェブサイト、LINE、Xなどでも配信されます。



▶ 目黒川洪水予報

目黒川は東京都の「洪水予報河川」に指定されているため、大雨により川があふれるおそれのある際には、河川を管理する東京都と雨量を予測する気象庁が合同で「目黒川洪水予報」を発表します。

目黒川流域にお住まいの方への注意

この予報が発表された場合は、自宅の浸水に警戒し、川に近づかず建物の2階などに避難してください。特に、地下室や半地下ガレージなどには一気に水が流れ込むおそれがあるため、十分警戒し、近づかないようにしてください。



他にも、気象庁では線状降水帯の発生情報、直前予測、半日前予測を発表しています。状況に応じて適切な防災行動をとりましょう！

風水害に関する基本情報

▶ 防災気象情報とは？

気象庁が発表する、大雨や暴風などによって発生する災害の防止・軽減のための情報です。発表基準は、風速・潮位や雨量指数などを用いて設定しています。

注 意 報	災害が起こるおそれがあるとき
警 報	重大な災害が起こるおそれがあるとき
危険警報	重大な災害が起こるおそれが大きい危険な状況であるとき
特別警報	予想される現象が特に異常であるため重大な災害の起こるおそれが著しく大きいとき

※警報・注意報などの基準は、市区町村ごとに過去の災害を調査した上で設定しています。

▶ 台風とは？

熱帯低気圧	最大風速17m/秒未満	台 風	最大風速17m/秒以上
-------	-------------	-----	-------------

熱帯低気圧でも大雨を伴うものがありますので、注意が必要です。

台風 の 大 き さ	呼び方	平均風速15m/秒以上の半径	台風 の 強 さ	呼び方	最大風速(m/秒)
	大型の台風 (大きい台風)	500km～800km未満		強い台風	33～44未満
	超大型の台風 (非常に大きい台風)	800km以上		非常に強い 台風	44～54未満
				猛烈な台風	54以上

風 の 強 さ と 被 害 想 定	風速10～15未満	樹木全体・電線が揺れ始める
	風速15～20未満	看板やトタン板が外れ始める
	風速20～25未満	何かにつかまっていないと立ってられない
	風速25～30未満	走行中のトラックが横転する
	風速30以上	ブロック壁で倒壊するものがある

※風速(m/秒)は目安

問い合わせ 道路が被害を受けたとき



▶ 区道の雨水ます・側溝が詰まった など

道路公園サービス事務所
目黒地域サービス係 | TEL：03-3711-6825 FAX：03-3793-4347
碑文谷地域サービス係 | TEL：03-5721-7287 FAX：03-3793-4347

▶ 都道の雨水ます・側溝が詰まった など

東京都建設局第二建設事務所目黒工区 | TEL：03-3715-3265

▶ 公道の下水管・汚水ますが詰まった など

東京都下水道局南部下水道事務所目黒出張所 | TEL：03-3491-7867



▶ 宅地内や私道の被害

最寄りの東京都指定下水道工事店へ

▶ 浸水被害後の健康相談

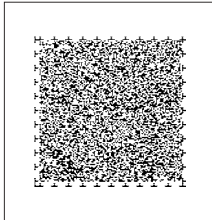
地域保健課保健相談係 | TEL：03-5722-9504 FAX：03-5722-9508

▶ 浸水被害後の生活再建

被災後の生活再建  91ページ

▶ 電柱や電線が損傷しているときなど

東京電力カスタマーセンター | TEL：0120-995-007 FAX：0120-995-606
03-6375-9803



5 もしものときの避難方法

STEP1：ハザードマップの確認

ハザードマップは、被害想定エリアや避難場所などを表示した地図で、区には水害ハザードマップと土砂災害ハザードマップがあります。

▶ 水害ハザードマップ※1

水防法に基づき、洪水（外水氾濫）・雨水出水（内水氾濫）・高潮のハザードマップを作成しています。

水害ハザードマップは「想定し得る最大規模の降雨※2」があった場合に予測される浸水状況を基に作成しています。

浸水の予想される区域やその程度は、雨の降り方や土地の形態の変化、河川・下水道の整備状況、建物の構造など様々な状況によって変わることもあります。

したがって、大雨が降ると、水害ハザードマップに示される区域が必ず浸水するということではありません。

また、浸水の表示が無い区域でも、状況によっては浸水することもありますので、十分にご注意ください。

※1 目黒区の作成する水害ハザードマップをご覧ください。

※2 総雨量690ミリメートル、時間最大雨量153ミリメートル
（平成30年12月東京都作成城南地河川流域浸水予想区域図より）

▶ 土砂災害ハザードマップ※

土砂災害防止法に基づき、区内の一部地域が土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域に指定されています。

土砂災害ハザードマップのなかで、**オレンジに塗られている区域は「土砂災害警戒区域」**で、土砂災害により住民に危害が生じるおそれがある範囲を示しています。

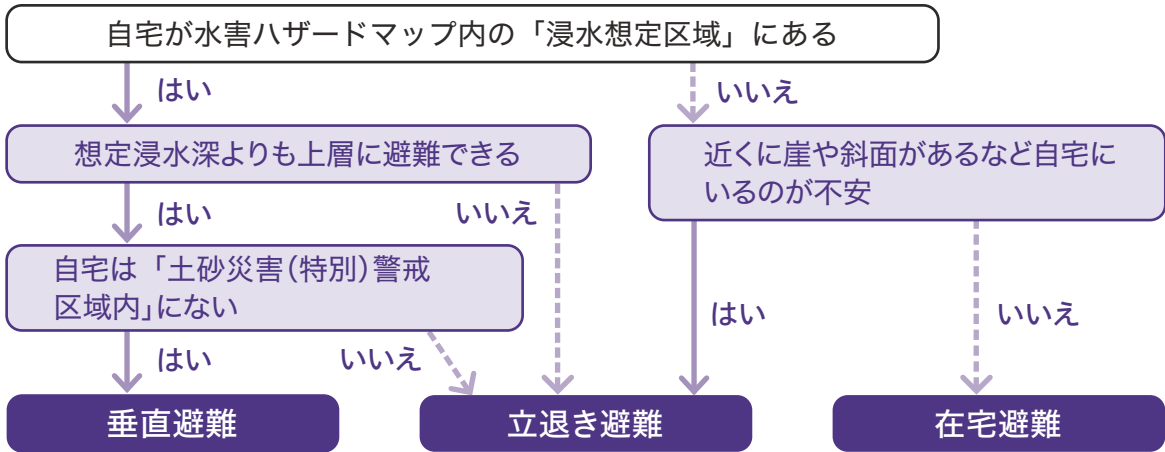
また、**赤に塗られている区域は「土砂災害特別警戒区域」**で、建物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある範囲を示しています。

そのほか、避難所や公共機関等、また関連情報の入手方法なども掲載していますので、日ごろからご家族や地域の方と話し合い、土砂災害の被害の軽減にお役立てください。

※目黒区の作成する土砂災害ハザードマップをご覧ください。



STEP2：日頃から避難行動を考える



▶ 垂直避難（屋内安全確保）

大雨や洪水発生時に、身の安全を確保するため自宅や居住する集合住宅の上層階に避難することを垂直避難といいます。

浸水の危険があるときは、近隣の避難所などへの立退き避難が優先されますが、避難自体が危険な場合には無理をせずに垂直避難をすることも有効です。

！ 目黒川が危険な水位に達するとサイレンが流れます。
目黒川周辺にお住まいの方は併せて警報機のサイレンに注意してください。

上部まで2.5mに達したとき	1mに達したとき
警戒水位警報	危険水位警報
サイレン 休	サイレン 休
15秒 5秒	3分 1分
9回鳴らします	2回鳴らします



▶ 立退き避難

自宅にとどまると危険なことも。原則、避難所※や安全な場所、親戚・知人宅などに避難しましょう。また、事前に避難ルートの浸水想定を確認しておきましょう。

※水害時は開設される避難所が限られますので、必ず開設状況を確認の上お越しください。

▶ 在宅避難

むやみに外に出ずに最新の情報を収集し、自宅待機しましょう。

※区から発令された避難情報に従って行動しましょう。

STEP3：こんなことも考えておきたい

▶ マイ・タイムラインをつくっておく

東京都が発行する「東京マイ・タイムライン」を参考に、台風や大雨などの風水害時にとるべき行動の計画を作成し、風水害に備えましょう。

※冊子は目黒区防災センターにて配布しています。詳細は右コード▶



▶ もしも浸水被害を受けてしまったら？ ▶ 91ページ

